

第5回 金沢市都市計画マスタープラン策定委員会 議事要旨

日時：平成20年10月21日 10:00～正午

場所：金沢市役所 本庁舎7F 第3委員会室

【金沢市都市計画課長挨拶】

【重点地区（旧城下町区域）のまちづくり方針について】

（委員） 計画マスタープランは非常に重要なものである。さすが金沢と思わせる、思い切ったものをやっていきたい。今お示しいただいたのは網羅的に項目としては押さえていると思うが、具体的にそれをどう形づくっていくのかというプログラム、戦略、あるいは背景が見えない。

例えばトランジットモール等は将来的に考えるということはあるが、具体的には出てきていない。第1段階としては片町スクランブルから香林坊交差点までは第1次のトランジットモール化に向けてこれから検討するとか、そういう例示でいいが、もう少しはっきりと示したらどうか。もちろん歴史を大切にすることは大切である。例えば4 - 8ページである。最後のページの全体図は私が作成した今に残る城下町時代の街路である。具体的に今に残る城下町時代の街路をどうこれからとらえていくべきなのかということである。

例えばトランジットモール等は将来的に考えるということはあるが、具体的には出てきていない。第1段階としては片町スクランブルから香林坊交差点までは第1次のトランジットモール化に向けてこれから検討するとか、そういう例示でいいが、もう少しはっきりと示したらどうか。もちろん歴史を大切にすることは大切である。例えば4 - 8ページである。最後のページの全体図は私が作成した今に残る城下町時代の街路である。具体的に今に残る城下町時代の街路をどうこれからとらえていくべきなのかということである。

この中心部というのは、やはりコンパクトシティの中心にもなるわけだから、コンパクトシティの概念の中で中心部をどう位置づけるか。また、新幹線に対してどういう具体的な重点地区への人々の呼び込み、誘導してくるのかといった、目に見えるような示し方が必要ではないか。

抜けていると思ったのは生活関連サービスである。旧城下町に住まうとなると、今はシャッター商店街みたいになっているわけだし、近江町市場は再開発中であるが、日常の買い物についてどう中心部をカバーしていくか、そのカバーできる範囲から外れる所は地域の商店街の復活とか、金沢らしい生活関連サービスの体系を考えていかなければいけないと思っている。

（委員長） トランジットモールや具体的なイメージなど、目玉になるようなものをもう少し書き込んだらいいのではないかということだと思う。トランジットモールは地域別の計画の中で少し出てくる。第3章の道路交通体系づくりの中で、ある程度体系的な話ができないと書きにくい。

（委員） トランジットモール化を明示的には書いてないかもしれないが、公共交通を中心とした「歩けるまちづくり」ということで位置づけていると思う。この辺は10年先、20年先のマスタープランとしたので、どこまで書き込むかというのは非常に微妙だ。例えばまちなか地区で説明したときに、いろいろ実験もやったし、これだけ交通量も都心通過はだいぶ減ってきた。そうすると、多少ゆとりが出てきて、これからはトランジットモール化してという意見が随分出てくるのであれば、市しても書き込めるのかなと思う。

- (委員長) この重点地区のまちづくり構想では全体の基本骨子の具体的なことが書きにくい。
- (事務局) 第4回のマスタープランの全体構想の中で、まちなかの道路整備というのは、旧の細街路がかなりたくさん色濃く残っていて限界があるということを示した。我々としては効率のいい公共交通をきちんとまずやっていく。そして、それにかかわる関連するようなものについても検討していくという形になるのかなと思う。
- 旧城下町区域は歴史性のかかわりが色濃く残っていて、金沢の特性を一様に表している所なので、そこは特出しをして方向性をお示しするという形になるかと思う。
- 中央地区の中のトランジットモールは内容的にはお示しすることができるかと思うが、方針ではまだそこまではっきりしていない。重点地区のまちづくりの方針ということで方向性を示す形になるのかなと思う。
- (委員長) 方針というもので抽象的な面になっている。
- (委員) 抽象的でもいいとは思いますが、それを予感させるような、意識させるような言葉遣いや新交通システムというのももう既に出てきた言葉なので、新しい交通体系というか、金沢のマスタープランでは独自にそういう戦略的な方向性を持てるというところを示さないインパクトが弱い。
- (委員長) 方向性の中でコメントの書き込みが少ないかもしれない。
- (委員) 今の意見と重なるが、この地域は少子・高齢化が最も進んでいる地域で、金沢駅を境にして旧の所は人口が減っている。そして、金沢駅から向こうの西側は人口が増えている。そして、ここは地域コミュニティの弱体化と全部の項目で書かれている。まちなかは、はたから見ると交通は他地域より便利だし、商業施設もあると捉えられているが、あるデパートに行くとお年寄りが多く、野菜とか生鮮食料品を買いにきている。そこは運んでくれるからである。また、玉川図書館の近くに住んでいる方に「便利だね」と言ったら、スーパーがないため、日常の生活に必要なものは郊外に出るということだ。
- では、若い人や子どもを抱えた人たちは果たして本当にまちなかで生活ができるのか、ということをもう少し踏み込んで考えないと、人口流出ということを防がなければ、まちなかで暮らすことはかなり無理ではないか。継続的に住めるのかということをお今回は考えさせられた。
- (委員長) 確かに暮らしということで捉えていく必要がある。
- (委員) 近江町は結構歩かなければいけないので、1カ所で済まない。お年を召した方は1カ所で買い物が済み、そこの方が運んでくれるのなら、多少価格が高くてそういう所へ行ってしまう。中心部の商業が成り立っていくには、多分その問題もあると思うようになった。
- (事務局) 例えば、商店街もきちんと活性化できるような施策が展開していく必要があるという認識は当然持っているが、マスタープランの中で位置づけをしようとする総論的なところにならざるを得ない。お話にあった

ように、その地区の魅力を高めて、そこに居住しやすいための施策を、ハードだけではなくて、高齢化社会に入っていく上でいろいろと重層的に展開していかないといけない。

地域の要望としては、ふらっとバスが欲しいとか、ふらっとバスが連携をして乗り継ぎできるルートになってほしいとか、バス料金がもう少し安ければ公共交通にシフトできるということがあった。その辺を今回は地域別の構想の中でご議論いただければなと思っていた。マスタープランの中に、各個店、商店街のお話をこと細かくは書きづらい。

(委員長) 　　ただ、4 - 4 ページの商業機能強化のような形では、問題の本質的なことを捉えたり、大事な方向を示しているとは言えないと思う。

(事務局) 　　もう少し高齢化とか、お店にちゃんとできるようなという書き込みを加える。

(委員長) 　　人が増えるということ、暮らしの問題として捉えることだ。

(委員) 　　商業施設の活性化というと、中心商店街とかデパートをイメージしてしまうので、定住促進に結びついた商業サービスということをおわせるような文言を入れた方がいいのではないか。

(委員) 　　一つの提案であるが、県外から来て住んでいる方々の意見を入れたらいい。意見を聞く場も案内したらいい。

(委員) 　　交流人口が増えると、犯罪リスクというのが激増するのではないかとこの懸念がある。それに対するセキュリティ対策はこの中で見えない。

(委員長) 　　防犯の問題はどこかに明示する。

(委員) 　　全体を通してみんなコミュニティの問題につながる。すべてがコミュニティの活性化になるということできくってしまっているのか。

(委員長) 　　最初の安全・安心、まちづくりの方針で全体的な方針を、防犯も書き込んで、重点地区である地域別で特徴とかを書き込むことになるのか。

(委員) 　　コミュニティの弱体化と交流人口が増えることで犯罪が増える。大きく分けると二つあるのか。

(委員長) 　　そういう因果関係が必ずしもあると証明されるわけではない。

(委員) 　　4 - 4、4 - 5、4 - 6、4 - 7に関連する重点地区の課題の中に緑の空間の不足というのが3カ所も書いてある。まちなかには金沢城や本多の森などがあり、郊外部より緑が多いと思うが、こういう書きぶりでもいいのか。この重点地区の課題は、重点地区以外の金沢市内との比較で書かれているのかなと思う。公共交通の利便性向上にしても、郊外と比べて非常に便利な地区である。これを課題に挙げるのは違和感を感じる。

(委員長) 　　緑は確かにあちこちにあるが、郊外のような都市公園があまりないということである。

(委員) 　　単に緑と書いてしまうと誤解を招く。

(委員) 　　私の立場からだと、例えば武家屋敷がなくなり細分化されるときに、大きな前庭が駐車場化している。歴史的に見ると非常に味気ないまちなみになってきているということ言えば、やはり緑は不足してきている。

- (委員長) 公共交通については、確かに中心部よりは郊外のほうが同じようなという考え方もあるが、市としては、中心部では公共交通と一緒に車を持たなくても歩いて生活できる。それが金沢の魅力であって、そういうふうにするのだという政策である。
- (委員) これは非常に難しい。逆に、郊外の公共交通がどんどん弱体化している。同じように、コミュニティ主体で補完していくと、幾らお金があっても足りない。金沢市の中心部のシャトルバスやふらっとバスの導入が進むと、通常の路線バスが必要ないではないかという時代になる。新体制の地方自治体の財政事情の中でそれを維持していくというのは非常に困難になってきている。企業ベースで採算が取れるところにはできるだけ行政が手を入れないという手法で、民間に任せるということが私はいいのではないかと思っている。
- (委員長) 公共交通とかの問題については総合計画体系を作る前に検討されていて、その中でかなり議論があった。今のご意見も一つの考え方の意見として受け止めたい。
- (委員) 郊外もこれから高齢化、人口減少が起こり、郊外のバス路線の弱体化につながっていくし、そのサービスの維持はしていくということは一点ある。しかし、重点地区、中心部が金沢にとってはある意味では命である。そこが空洞化しているという非常に大きな問題を抱えている。まだ戸建て住宅に定住人口がどんどん戻ってきている状況にはなっていない。
- (委員長) 郊外の将来的な課題は、後で地域別にまた出てくるかと思う。
- (委員) 商業・業務の機能強化によるまちなかの活性化の最後の2点があまりにも短絡的な表現ではないか。中身の話をいろいろ入れたらいい。ここである程度押さえておかないと、他でちゃんと言っていることと連動していない。
- (委員長) ストリートファニチャーなどはあまり成功していない。狭い街路空間にいろいろなものを置かない方がいいのではないか。街全体でうまくきれいに考えるべきで、縦割りで美術のものだけは失敗しているような感じがある。
- (事務局) 金沢の町のありようというのが、今まで近代的景観創出といっている所、昔の趣のある所、それは開発と保全ということに二律相反するようなどころであるが、そこは協調しながらやっていこうということである。もう一つは公共交通も大事なことであるが、金沢のこまちなみ区域というのは歩いて行ける距離なので、そのための何らかの動機づけなり、そのきっかけが必要である。また、学生が作成したものを掲出するようなスペースも設けたらいいのではないか。目的は、歩いて楽しめるような空間を造ることが、結果的ににぎわいの創出になるということなので、この辺の表現をもう少し検討を加えたいと思う。
- (委員長) 具体的な話もいろいろな点で出ているので、まちづくり方針に踏まえ、その中でまた議論していただきたい。

【地域別のまちづくり方針について】

(委員) 中央地区の中で空き家および駐車場の問題がある。そこにあまり高層のものを建ててもらっては困る。高さ制限もかかっていると思うが、金沢型の住宅モデル、金沢にふさわしいものをこれから考えていくということをご提案したい。

中央地域の周辺地域に一部重点地域が重なっている。旧市街地にかかわる所は歴史的な整備をしていくことを少し明確にした方がいいと思う。

重点地域以外の周辺地域になるが、金沢はやはり美が大事だと思う。これは歴史的なまちなみの景観美、郊外であれば自然美である。そうすると、景観の配慮をしていく、斜面緑地の保全とかをうたわれているが、気になるのはそういう斜面緑地に看板があったり、目障りなものがある。例えば江戸村に至る所も丘陵地だから、その幹線の沿道景観にあまり目立つような看板があったら取り下げさせていただくとか、工場の周りの緑化も大事である。

パーク&ライドがこれまでうまくいっていないのではないかと。

(委員長) 中心地域などで戸建てとか歴史的なものに調和する集合住宅については、第1次のマスタープランでかなり頑張ってお書き込んだが、今回はそれがほとんど抜け落ちている。市街地像の描き方について、もう一度ご検討いただきたい。

(事務局) まちなかにも駐車場がかなりある。定住促進、コンパクトシティという議論をしようとする、ここをいかに活用していただくかということは当然出てくる。低未利用地に住宅が入ってこられるような環境をまず作ることが大切である。土地利用方針ということでは、一定の景観の議論の中で方向性をお示しする。なおかつ現在、都市計画法の中では高度地区ということで、住居系については既に高さ規制をしているが、まちなかの商業地域、準工業地域、近隣商業地域についても一定限度の高さ規制をしていかざるを得ないということで、その作業も併せてやっている。景観の議論と都市計画による高さ論を重層的にやっていくことでまちなみの形成を図っていきたいと考えている。

今日お示した地域別まちづくり方針素図は全く稚拙で申し訳なかった。前回と比べてかなり見劣りがするというのが現状かと思うので、ここはバージョンアップしてお示ししたい。

(委員) パーク&ライドについてはいろいろ努力もしているし、周辺部を含めて2,700台分の駐車場スペースをそれぞれの地区に確保しながらこれから進めていくというのが、地域別の割合も含めて計画は作っている。

(委員) 公共交通の活性化は中心部だけではなく、公共交通で中心部から郊外への流れを良くするというのがある。例えばブラジルのクリチバ市はバス停がチューブ形になっていて、雨や雪とかを除けられる。しかも、バス停で改札を済ませて、バスが止まると、定時で発着する。そういう公共交通利用の流れをつくるということである。

- (委員) 無電柱化の推進を最重要の項目に入れているが、各地区にはそういう言葉を使っていない。やる予定の所は、無電柱化の推進で景観の保全を進めると入れていく。
- トランジットモールは都心軸上でやるみたいに見えてしまう。そこを限定されているのだったら、されないような記述の方がいいと思う。
- 地図で、例えば中央地区の公園や金沢城公園の周りの道路が抜けている。
- (委員長) トランジットモールは短期的には難しく、長期的ということで書いていると思う。
- (委員) 新幹線が来るときまでには何とかという目標があったが、新幹線が6年先には来そうだということになるとそれには間に合わない。そうすると、次は新幹線が福井につながったときぐらいかなという気はしている。
- (事務局) 現在、パーソントリップ調査をしており、交通容量とトリップの状況を集計して、解析している。金沢市のまちなか全体のトリップ数は、やはり少子・高齢化になって人口も減っているため、全体的に下がり傾向になっている。一方、環状道路の完成が結果としてまちなかの交通量を減らすことに大きく寄与するということが分かった。
- もう一步進めて、まちなかの公共交通ということであれば、われわれとしては軸線上の中でもトランジットモールということを将来的に当然やっていかなければいけないという認識を持っている。次の世代のステップということで新しい交通システムとして、あえてここに入れている。少しスパンの長い議論も踏まえた上でお示しすることの方が大事ではないかなということで記載している。
- (委員長) ただ、検討するということが少しトーンが弱い。
- (委員) 花いっぱいイベントがあり、ほかの県から多くのゲストがお見えになった。トイレの表示がまちなかを歩いていて分かりづらいという意見があったため、トイレの表示も分かりやすく表示するのが大事だと思う。
- (委員) 例えば交通施設整備の方針を考える上で歩行者、自転車、公共交通、自動車と主要な交通手段を考えたときに、それぞれ地域ごとに主体的な手段を強化するというか、都心地区、あるいは中央地区であれば公共交通と歩行者が歩けるといところをメインに置いている。ただ、自転車についてあまり触れていない。せっかく自転車走行帯を作って、これから拡大していこうという動きもあるし、市長はレンタサイクルのステーションを市議会でも検討したいと言っている。市は駐輪場の整備もやっているし、いろいろな形で警察と協力しながらやっているのも分かるが、もっと評価して、自転車についても書いてほしい。
- 東部丘陵地域の5-19で安全・安心な都市づくりの方針と書いてあるが、せめて地域づくりぐらいに変えた方が違和感がない。
- (委員) 芸術村は結構土地が余っているため、そういう所からパーク＆ライドを進めるのはどうか。

- (委員長) 新しい提案である。
- (委員) 新幹線が来て、在来線はどうなるのか。そのときの交通体系というのはこの中でどういうことになるのか。
- (事務局) 基本的に新幹線が来たときという言い方は金沢開業という言い方なわけである。金沢で新幹線が開業すると、並行在来線、金沢駅から富山に新幹線が来ることは特急電車がみんな新幹線に移行するという形になってこようかと思う。一方、福井は依然として金沢駅で乗り継ぎということになるので、並行在来線の扱いはまだ議論していない。
- 当分は貨物列車も当然つながっているし、それから、タウントレインという形での特急電車がある間は、少なくともJR西日本が在来線の維持管理をしているという状況になろうかと思う。
- (委員) コンパクトシティという言葉があまり出てこない。電車を活用するという交通体系と、例えば歴史的な環境とか、目玉はある。重点地区の場合にしても、トランジットモールと重点地区という関係とかダブって書くということもあろうかと思う。住宅地を抱えていれば、コンパクトシティとのかかわりが強くなるわけだから、この地区はコンパクトシティとしてはこういう方向で今後考えていくという位置づけもあればいい。野町とか増泉辺りだと市街地に隣接した住宅地であるが、今後も存続していく。そうすると、存続していく所と人口が少なくなってくる所の位置づけを考えていかなければいけないと思う。
- (委員) 南部丘陵地域、北部地域、東部丘陵地域は、ますます中山間地の集落の減少現象で、限界集落が出てくる。そこに対する対策はどうするのか。1軒だけ残ったとか、3軒しかないとか、地元では何とかしようと思っで一生懸命若い人を中心に頑張っている所があるが、限界である。政策的にそういうところにテコ入れするというところが見えない。
- 加賀平野の集落はまとまっていい感じであったが、最近は旧の集落の周辺に宅地ができるなど、いろいろな開発が進んで、そういう良さがほとんどなくなってきて大変残念である。そこに対してもあまり明快にはしていない。その辺はテコ入れするのか、自然に任せるという方向なのか。或いは、そういう誘導は考えていないのか、考えているのか。
- (事務局) 1点目、中山間地はかなり山が荒廃をし、そのことがいろいろな影響を与えて、水害などにつながっているのだろう。一方、現在、現実的なところでは担い手がいない。市も農業施策としてブランド米、林業、担い手という農業サイドの育成に力を入れていこうということであるが、集落維持にかかわるところは実際のところはなかなか手が回っていないというのが実態かなと思っている。
- 学校そのものが維持できないで統合となると、今度は学校までの通学距離が長くなる。そうすると、交通手段をどうするのか。毎日車で送り迎えするのかという議論などがある。あと1軒、2軒ある所はどうなのかということ、森林を守るという手立てと、そこにずっと住み続けるのか

というところは非常に難しい。この前の水害の中でも、そこが歯抜けになってお住まいできなくなったら、その集落に住まうというのはやめて、畑とか田んぼだけをしに行くのかという議論があった。そこは正直なところまだ明確に議論していないのが実態だ。

ただし、中山間地の中で担い手の学校が存続すれば、例えばその一部中山間地の中でも地区計画という手続きをとって、そんなに大きくないような規模のところ集落を維持できるようなスペース的なものを確保することによって、交流とか定住につながるのではないかとということで検討して、産業局と都市整備局との中で方向性が定まれば、そういうこともテスト的にやっていけばいいということになっている。

一方、平野部の市街化調整区域でも状況的にあまり変わっていないということも事実だと思う。しかし、私どもは、これ以上の市街化区域の拡大はしないことを明確に今回のマスタープラン、議会で示した。今度は平野部の農業サイドとしての担い手とか農地の保全の仕方とは農業サイドでいろいろご議論いただいて、集約化なり、いろいろな支援なりというところでやっていく形になろうかと思う。

限界集落をどうするのという点については、町の道路もある程度整備をしてあるので、ずっとお住まいいただけるのか、通いというか、集落の森林などの維持管理をしていくための別の議論を少し深めないといけないうのかなと思っている。

(委員長) 調整区域だけではなくて、市街化区域で積み残してきた集落についてある程度考えていただきたい。

(事務局) 市街化区域内の農地の扱いについては、その重要性もいろいろ議論があるかと思う。自然にかかわること、防災にかかわること、それから、潤いにかかわることというところがあるので、それなりに位置づけをしていこうということで考えていきたい。

(委員) 公共交通の部分の中で運行計画があると思うが、市の方で設定して段取り立てをして作っているが、実際には全部運行会社が国に対して手続きをした上でしかできない。当然ながら、許認可という制度の中で運用している。官民連携という形になれば、その表示をした方がいいと思う。あたかも市が独自に全部やれていると担保すると言い切るものではない。もう一つ、5 - 16 の南部地域の所の「成熟した住宅地」というのはどういう住宅地を指すのか。

(事務局) これまで金沢市が基盤整備ということである程度早い時期に区画整理などの整備を進めてきた。そこに人間がたくさん張り付いていて、緑や公園が年を重ねることによって成熟している、ちゃんと落ち着いたまちなみになっているという考え方である。

(委員) 理想的な住宅地とは違うのか。

(委員) スプロールしていない。

- (事務局) それなりに歯抜けになっていないというか。現状としてちゃんとまちなみにそれなりに住宅が張り付いて、それなりの整備をされている、成熟した住宅地という表現をした。
- (委員) これは成熟した住宅地の形成を目指すという位置づけだから、ほかの住宅地は成熟した住宅地を目指さないのかという話とは別であるが、この住宅地だけが成熟した住宅地を目指すというのに違和感があった。
- (委員) 事務局にお願いだが、第2回の地域の説明会では第1回よりも多く、地域の皆さんに出席いただいて、できるだけたくさんの人にご理解いただくことをお考えいただきたい。
- (委員) 郊外のまちは金沢らしさを感じられない。関係官庁が連続的な施策をして、金沢らしいまちづくりができればいいなと思う。
- (委員) 私も、金沢らしさということは重点地域だけではなくて、周辺もどうなのかということを考えてほしいと思う。

【全体構想へのフィードバックについて】

- (委員) 金沢みらいシンポジウムはどういう意味があるのか。
- (事務局) 昨年度、今年度2カ年かけて都市計画マスタープランについてご検討いただいている。来月末にみらいシンポジウムという形で広く概要について市民一般の皆さま方にご説明するとともに、そういったことに対して意見を頂こうということである。
- (委員長) それについては参加の予定に入れておいていただきたい。
- (事務局) 今日は重点地区のテーマイメージをお示した。ここで金沢の「にぎわい」づくり、「ほんもの」づくり、「みりょく」づくり、「もてなし」づくりをベースにして、そのことが都市づくりを牽引する金沢の「芯」づくりという言葉を使った。この言葉についてどうだろうか。
- (委員長) 「コア」という言葉よりユニークでいいのかもしれない。
- (委員) 意味は分かる。ここのところは非常に大事なところなので、ここで全体が見えるようなインパクトのある金沢らしい都市計画マスタープランを打ち出していただければなと思う。
- (委員長) 第6回は時期的にはかなり積極的な議論になるのかなと思うが、出された意見を実見として成果として出していただきたい。

【次回予定】

- (事務局) 次回は、11月30日にシンポジウムがあるということで、11月の下旬ぐらいに予定したい。

以上